

# 報告書

我東京鐵工組合大崎第六支部の前支部長石橋憲一君等が、日勞黨幹部と策動し、紛争を惹起したることは、東京鐵工組合理事會の聲明書に依つて明らかであるが、其後彼等一派は、盛んに卑劣なる逆宣傳を行ひつゝあるに鑑み、茲に改めて其真相を發表する次第である。

## 血と涙で獲得した團體協約權

抑々我大崎第六支部の團體協約權は大正十三年三月及四月に兩度の争議を行ひ、(當時大崎第五支部員)百數十名總誠首の大犠牲を拂つて獲得したるものであつて、これが運用に依り着々勞働條件が改善されたのである。

## 御用組合の組織

然るに石橋憲一君は、日勞黨幹部と結託し、我支部を組合同盟に引き入れんと計り、たまく工場主の姻戚者が、従業員中に多數あり、これ等が御用組合組織の魂膽あるを利用し、これを幹部となし先づ岡部従業員組合なる御用組合を組織し、然る後おもむろに日勞黨参加に決せんとしたのである。

## 日勞黨幹部の陰謀

昨年十一月、勞働總同盟が、日勞黨一派を除名したる際、石橋君等は、日勞黨の望月源治君、川崎甚一君等と數回に亘つて密議をこらし、本年一月二日には、五反田通り某料理店に望月君の招待を受けて、總同盟切り崩しのために、下劣極まる術策を弄し始めたのである。

## 鼻持ならぬ卑劣手段

かくして、先づ支部長福岡金次郎君を葬らんとし、工場主の姻戚者を先頭に押し立て、「メーデー参加の強制は不都合である」「土井君が工場主より給料を取るのには不都合である」「義捐デーを設けたるは不都合である」等、さながら工場主の代辨者の如き標語を掲げ、或は、「消費組合が福岡君の不正に依つて潰れるから、出資券を買却せよ」と宣傳し、或は「我々の運動には工場主の姻戚が加はつて居るから、我々に反對するものは誠首される」等實に鼻持ならぬ姦手段を弄して、訓練淺き婦人組

昭和二年三月廿四日

總同盟 東京鐵工組合大崎第六支部

府下北品川袖ヶ崎四九四